令和6年度　輪之内町立仁木小学校　　自己評価書

学校の教育目標	ひろい心をもち豊かに表現できる子
経営の重点	◎　学校の教育目標の具現に徹する学校の経営 ◎　一人一人のよさを引き出し、生かし、伸ばす意図的・継続的な指導・支援の推進 ○健康安全教育　○学級経営　○学習指導　○道徳人権教育　○家庭・地域との連携　○働き方改革 ◇指導・支援の基本＝　「ひたむきに取り組む姿を徹底して褒める」

町の重点	評価の窓	評価	１２月末までの成果	１月及び来年度以降の課題（●）と改善策（□）
【道徳教育】 自己を見つめる力と他を思いやる心を育てる。	生き方（命の大切さ）についての考えを深める道徳教育の充実	B	○全校研究会では、道徳の基本的な授業過程や児童が活発に議論する授業づくりについて学び合うことができた。 ○普段から、命の大切さや安全について話題にすることができた。また、植物を育てることで意識を高めた。 ○自分や仲間のよさを考え、伝える時間を作ることができた。	●行事等で時間割の変更もあるが、計画的に実践したい。 □お互いの授業を見合い、授業改善につなげる道徳ウイークを設けたい。 □人権週間や他教科との関わりをもたせながら、道徳教育を推進していくと、児童により意識をもたせることができると考える。
【人権教育】 自他の違いを認め、互いに人権を尊重する望ましい人間関係を醸成する。	児童生徒と全教職員が一体となったいじめや差別を許さない学校・学級づくり	A	○人権週間では、人権主任中心に全校的な取組や、人権の大切さついて考える意図的な指導が実践できた。 ○よいことを見付け、仲間同士の関わり方や言葉遣いなどの意図的な取組で、自己肯定感の向上と人権意識を高めた。	●児童の言動に見られる偏見や差別意識に繋がる行為に気付き、意識を高められる指導の継続と、教師からの価値付けをさらに充実させたい。 □4月に「なかよし宣言」を決める際には、前年度からの課題とつなげて話し合いをする。
【生徒指導】 共感的な児童生徒理解に徹し、よりよい人間関係の形成を図り、自己指導能力を育てる。	いじめ・不登校・自殺等の未然防止と早期発見・対応の強化 SOSの出し方教育の推進と相談体制の強化	A	○全学年、スクールカウンセラーとともに、学年の発達段階に応じたSOSの出し方教育が実践できた。 ○悩みアンケートの実施や対応を工夫改善し、教育相談を位置づけて、いじめの未然防止や登校しぶりの解消につながっている。 ○保護者や職員と連携して情報を共有し対応できた。	●不登校児童の居場所づくりなど模索しているが、一時的な効果はみられても、解消につながっていない。 ●SOSの出し方教育、よりよい人間関係を築くためのエンカウンターを継続し、充実させたい。 □保護者及び関係機関と連携しながら改善を図りたい。
【総合的な学習の時間】 探究的な学習を通して、よりよく問題を解決する資質・能力を育てる。	「ふるさと輪之内」に学ぶ態度と輪之内を愛し誇りに思う心を育成する探究活動の充実	A	○出前講座や施設訪問など、地域と連携して、多くの活動を仕組み、輪之内の良さを実感することができた。 ○米作りでは、地域の方々との交流をさせることで、ふるさとの思いを高めることができた。	●地域を誇りに思う児童を育てるために、例えば地域の自営の方の仕事を見せてもらうと、「○○さんの家の仕事」など、身近に感じられるのではないか。 □より探求的な学びが効果的にできるよう、今年度の実践をもとに、年間の指導計画を見直す等、工夫改善を図って、次年度の準備をする。
【教科指導】 基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、思考力・判断力・表現力及び自ら学ぶ意欲や態度を育て、学力向上を推進する。	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善	A	○各ステージでの学習指導の重点を明確にし、児童一人一人がめあてをもち、振り返える場を設定し、主体的な学習につなげた。 ○研推を中心に全研・部研などを位置づけ、教科指導や授業づくりを学び合いながら、授業改善に取り組んだ。	●学年の発達段階を考えると、同じ時期に全校統一の「話す・聞く・書く」の目標設定では厳しい部分もある。 ●どの教科、どの学級でも、「できた」「わかった」と思える指導や手立てが必要ではないか。 □「聞く・話すこと」、「ノートづくり」の目的を明確に意図的な指導をする。 □教科指導の研究研修を通して、授業づくりを全職員で学び合う。
【ICT教育】 児童生徒の情報モラルを高め、情報社会に対応できる情報活用能力を育てる。	ＩＣＴを有効活用した学習活動の充実（「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実）	A	○情報モラル教育に関わって、意図的計画的に指導した内容を家庭に発信し、協力を求めた。 ○研究実践を通して、ICTの活用をした指導方法を、教職員で学び合うことができた。 ○情報モラル宣言を児童会が主体となって発信できた。 ○GIFUウェブラーニングやミライシードなどに取り組めた。	●使い方や授業中のルール等、情報モラルついて徹底して指導しなければいけない。 ●協働的な視点からはICTを活用できていない。 □定期的にタブレットの使用活用をチェックする等、見届ける。 □iPad及び、共同編集などの効果的な活用について、研修などでも積極的に学びたい。
【外国語教育】 外国語に慣れ親しみ、コミュニケーション能力を高める。	主体的にコミュニケーションを図る姿が具現される指導方法等の工夫	A	○ALTや英語専科から学べることは、国際交流の機会として意義がある。 ○英語の授業では、自分から話そうと思えるようになっており、生き生きと取り組んでいる。全員が理解できるまで、その内容を進めずに、分からないところは子どもたち同士で解決できるようにコミュニケーションの場を設定できた。	●支援学級（知）の低学年の外国語活動は、交流に行ける子と行けない子がいるので、個別に対応したい。 ●国際理解教育をする機会が少ないように思う。 □英語の授業の他にも、ALT等を含めた外国の方々とのコミュニケーションの場や国際理解を深める場を工夫したい。 □英語専科と、学級担任が連携して、個に応じた指導支援に取り組む。
【キャリア教育】 社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育てる。	勤労観・職業観を育成する体験活動の位置付け 事前・事後指導の充実（キャリアパスポートの活用）	A	○地域や企業の出前授業、社会見学や宿泊研修を通して、視野を広めたり、体験的な学習をしたりできた。 ○委員会の取組を全校に働き掛ける等、係活動への責任感が高まった。放送などで紹介することで、価値付けがなされ意欲を高めた。 ○行事や、学期の後には、「キャリア・パスポート」で自分や学級を振り返る場を設定できた。	●高学年の委員会活動で、自分たちが学校を動かしているという思いをもてるような常時活動やキャンペーンなど、児童自身が創意工夫できるように仕組みたい。 ●「まごころタイム」に、働く人の講話を盛り込んでいきたい。 □次年度に向けて、特別活動や総合的な学習の時間等の年間計画を見直し、工夫改善を図る。
【特別活動】 所属感を高め、よりよい生活や望ましい人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。	望ましい人間関係や学級集団としてのまとまりを育てる学級経営の充実（ＱＵ検査の活用）	B	○研修で学んだことを学級経営に生かすことができた。望ましい人間関係の構築のために、QU検査の結果をもとに、エンカウンターを実践した。 ○児童集会では、委員会の児童が全校に発信、働きかけを行う等、活躍の場を設定できた。 ○低学年においても、係活動や当番活動など、任された役割を責任をもって行うことができるよう指導ができた。	●「学校を動かすリーダー」という意識・意欲を育てる必要がある。 ●低学年でも同じ子としか遊べないと言う児童がいる。 □所属感や自己有用感を高めていくために、「あなたのおかげ」「ありがとう」を教師からより一層発信する。 □児童会の組織や活動の見届け等、リーダー育成と活性化ができるように検討する。
【健康安全教育】 運動に親しみ、進んで健康で安全な生活を営む態度を育てる。	体力向上のための取組 自ら命を守りきる防災意識を向上させるための指導方法や指導体制の工夫改善	A	○児童会の健康委員会の取組として、全校なわとび等、児童主体の活動ができた。 ○歯と口の健康づくりにおいて、地域や専門家、家庭と連携し、子どもたちが自分事として課題を捉え、生活を見直すことができた。 ○命を守る訓練では、事前指導を充実させ、訓練につなげられた。 ○学級遊びの日や担当の係を位置づけ、全員で遊ぶ時間をつくった。	●実際の災害が起こったときに、生かすことができる訓練になっているのか見直す。 ●高学年になるにつれて、学級遊びへの意欲が低くなってしまう。 □日常の安全指導や多様な想定での命を守る訓練を計画的に行う。 □生活習慣や体力を身に付けることの大切さを啓発し、意識を高め実践力を付ける。
【コミュニティ・スクール】 地域と一体となって特色ある学校づくりを進める。	学校運営協議会の活動、地域学校協働活動を推進し、地域とともに行う学校づくり	A	○「まごころタイム」の地域講師や、家庭科等の学習支援ボランティア、読み聞かせ、懸崖菊や田植え、稲刈りなどで、地域の方と連携し共に学ぶ機会があり活動が充実した。 ○地域の見守りやスクールサポーターの支援が手厚い。家庭科で学習支援ボランティアとして、保護者の方にも助けていただいた。 ○コミュニティーフェスタでは、音楽発表会を参観していただけた。	●負担が大きくならないように、やり方や進め方を考えていくべきだと思う。 □行事や活動に見通しをもち、計画的に実施する。計画の際の職員の役割の分担も含めて、やり方や進め方の工夫改善をする。 □その他の活動でも、必要に応じて、学校支援ボランティアを募集も行う。保護者ボランティアは、授業参観していただける機会でもある。
【学校経営】 全教職員が協力しチーム学校として活力ある学校経営をする。	勤務の適正化と教職員が健康でやりがいをもてる経営	A	○明るい雰囲気の職員集団で、気軽に相談ができ、協力して行うことができている。 ○やるべき事を精選しながら校務ができている。 ○研修ではたくさんの意見が出て、教職員の学ぶ姿勢が高い。 ○トラブルが起こったとき、チームとして迅速に対応できている。	●時間外勤務がつい長くなりがちの職員もいる。効率的な働き方が意識できるようにしたい。 ●各々の教職員が「やりたいこと」を積極的に提案できる場が必要である。 □教職員にとってのやりがいを高め、効率的な働き方につながる、研究や研修の在り方を工夫し、実践する。
【研修】 自己の課題を明確にし、主体的に研修を進め、確かな指導力を身に付ける。	研修主事を中心とした組織的・計画的な研修の実施	B	○教職員として必要な内容について、実践的に研修を通して学ぶことができた。 ○必要な事を適正なタイミングで計画し、実施されている。とても効果的であり、学級経営に反映できた。また、学活や道徳、学級経営に対する課題を明らかにして、改善することができた。	●繁忙期には、ニーズに応じた内容をタイムリーに実施できないときがあった。回数を増やしていくための工夫をしたい。 ●iPadの活用についての研修をしてほしい。 □今年度の研修を踏まえて、来年度の研修計画をより具体的に考えて、見通しをもって進める。（校務分掌に合わせて、研修を担当する人を決めたり、事前に月行事に研修の時間を位置づけたい。）
【特別支援教育】 一人一人の教育的ニーズに応じ、自立し社会参加するための基盤となる力を育てる。	特別支援教育コーディネーターを中心とした校内支援体制づくりと合理的配慮の構築	A	○個別の支援計画、指導計画の見直しを随時行うことができた。 ○特別支援コーディネーターからの助言やサポートを、配慮を必要とする児童への支援や保護者との連携に活かすことができた。 ○ケース会議や通級での学習記録を活用し、児童理解を深め、指導支援につなげた。	●自立活動を通して、個々の児童に育みたいことを、再検討したい。 □次年度に向けて、児童の困り感に応じた生単と自立活動のもちかた、年間指導計画の作成等、見直しをする。

【学校関係者評価】

○ふるさと学習や環境教育など、輪之内町のことを熱心に学ぶことができている。学習を通して、ふるさとへの愛着が育まれている。今後も継続していきたい。

○情報モラルについては大人にとっても難しさがある。ＩＣＴ教育に関わっては、町内の諸団体との連携を図ったり、町や学校の「情報モラル宣言」に関わる取組をしたりするなど、今後も力を入れていく必要がある。

○家庭学習における自主学習の取組を通して、自分の興味や関心を深めることができた。主体的に学ぶことに繋がる意義深い取組である。

○読書活動については、保護者には情操教育の側面についてや親子読書の意義等を啓発するとともに、学校での朝読書等の日常的な取組をメールで発信することで、意識を高めたい。